

ヘルスマーター

日本歴代首相の脳卒中

脳卒中とは、^{こうそく}脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の3つの病気の総称です。日本歴代首相の中にも脳卒中で倒れた方がいます。

佐藤 栄作氏：首相退陣後、1975年に料亭での宴席の最中にトイレに行こうとして倒れ込み、すぐいびきをかき始め、医師が診察し絶対安静の方針となり、4日間料亭に留め置かれました。最終的に大学病院へ搬送されましたが昏睡のまま2週間後に死去しました。死因は脳出血でした。

田中 角栄氏：首相退陣後の1985年に脳梗塞を発症しました。言語障害・運動まひが残り、療養生活を送った後1993年に死去しました。

小渕 恵三氏：首相在任中の2000年に脳梗塞を発症しました。状況からみると血管内治療も行われたのではないかと推測しますが、昏睡状態のまま首相を辞任し、死去しました。

3人の方の経過をみると、まず佐藤氏の場合、1975年の時点ですが脳卒中の初期治療が直ちの病院搬送ではなく絶対安静だったということに非常に驚きます。また田中氏の場合、1985年の時点でも脳梗塞に真にあらがう有効な薬剤・手技は無かったということです。さらに小渕氏の場合、2000年は、脳血管内治療の黎明期で、現職首相という立場も考慮して、治療に当たった医師は生命予後だけでなく機能温存も狙ったのでしょうが、脳梗塞の急性期治療において時間との勝負に勝てなかったことがうかがい知れます。3人の方は首相経験者であり、いずれも当時の日本最高水準の脳卒中治療を受けているはずですので、50年前から現在までの変遷が浮き彫りになるようで興味深いと思います。

脳卒中を予防するために

血圧管理をしっかり行う必要があります。一般に正常血圧とは130/80mmHg以下を指します。これ以上の時は薬の内服を含めて対処すべきです。食事では塩分・油控えめを心がけましょう。また仕事を離れてリラックスする時間を設け、適度な運動もしましょう。また40歳になったら一度脳ドックを受診して脳の画像検査を受けることもお勧めします。

稲城市医師会 小山 英樹